

日常生活に不安を抱える人は 78%^{*1}

「普通に生きる」だけでも大変な時代

製パン会社の会社員として8年、低賃金や深夜勤務での体調不良などを経験。身近な友人にも、コロナ禍で音楽の夢を諦めた人や、産休や育休が取れずに悩んでいる人、パワーハラで精神的に病んでしまった人がいました。

コロナ禍を通じて、誰もが「生活への不安」や「生きづらさ」を感じていることに気づきました。自分の生き方についても、このままで良いのか疑問に感じた矢先、父が脳梗塞で倒れ、車椅子生活を余儀なくされました。誰もが日常生活に不安を抱え得る状況です。

みんなの生きづらさに寄り添った地域を！

父の車椅子生活に伴い、実家に戻り、現在は多摩市から職場に通いながら介護という生活を送っています。仕事と介護の両立は大変ですが、日々様々な気づきに溢れています。

故郷の多摩市に戻ってきて、改めて「一人の若者」として、「介護当事者」として、「パン職人(食品業界のプロ)」として、地域で役立てることはないかと模索しながら活動中です。生きづらい人たちが、もっと、のびのびと暮らせるような多摩市になることを目標に、頑張っていきます。

*1 内閣府の2022年世論調査より

ホッとして暮らせる
多摩市を目指したい！



無所属
31歳

小泉しんぺい

小泉しんぺいの
一番やりたいこと

多摩市の高齢化率はNo.3！

多摩市内の坂は車椅子
利用者にとっては本当に大変です。



高齢者も介護も、ホッとする暮らしを！

父の介護をするようになりました。例えば、車椅子を押して永山駅から電車に乗る場合は、商業施設の駐車場に車を停め、商業施設内のエレベーターを使わないと移動ができません。休日はエレベーター前にベビーカーの行列ができていることもあります。バリアフリーの問題だけでも改善するところは沢山あります。

多摩市は多摩26市で3番目に高齢化率が高いです。これからも高齢化が進んでいく見込みとなっています。坂の多い街であっても、身体が衰えても、生きる喜びを感じながら暮らしていく多摩市を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



小泉しんぺいの 基本姿勢とこだわり

平和・暮らし・気候の問題は、どれも根本的に繋がっています。一見、市政には関係なさそうでも目を逸らさず、「人に優しいこと」、「フェアであること」、「エコであること」を大切にしながら、身近な課題の解決に尽力していきます。

介護福祉向上・バリアフリー化

介護当事者としての気づきを積極的に発信し、駅周辺のバリアフリー化や、介護制度の利便性・公平性の向上を目指します。

自分らしく生きられる街へ

自分自身、生きづらいと感じることがあります。低賃金問題の改善、就職のサポート、メンタルヘルスケアなどを拡充し、多様な生き方を応援。

若者の政治参加を促進

若い人たちに政治へ関心を持ってほしいです。若者会議の予算拡充や、地域行事への参加促進など、政治を身近に感じられる仕組みを提案。